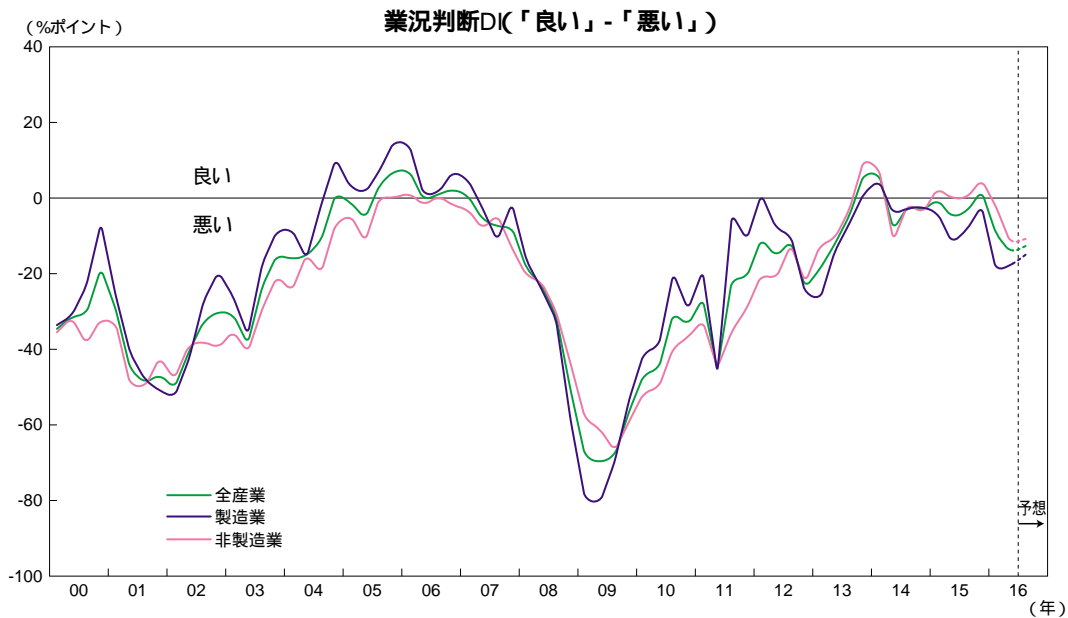


中小企業景気動向調査

〔2016年4～6月期の景況/7～9月期の予想〕

景況感2四半期連続の悪化。一部に熊本地震の影響も。



【調査要項】

実施期間: 2016年5月23日～6月6日

調査対象: 県内の当金庫のお取引先995社(下記参照)

調査方法: 郵送および面談による調査

分析方法: 業況、売上、収益、資金繰り、人手などについて、「良い」(増加など)と答えた企業割合から「悪い」(減少など)と答えた企業割合を差し引いた値(DI: Diffusion Index)を中心に分析

	製造業	卸売業	小売業	飲食業	建設業	不動産業	運輸業	サービス業	合計
調査先数	429	132	70	31	157	40	40	96	995
回答数	388	117	62	30	150	38	36	87	908
回答率(%)	90.4	88.6	88.6	96.8	95.5	95.0	90.0	90.6	91.3

結果概要

4～6月期の景況

景況感2四半期連続の悪化。一部に熊本地震の影響も。

製造業のDIは小幅改善、非製造業は大幅悪化。

売上・収益が振るわず、幅広い業種で減収減益に。残業時間減少。人手不足つづく。

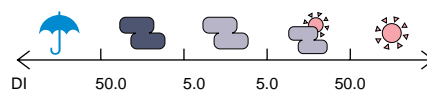
7～9月期の予想

予想判断DIは小幅改善。製造業・非製造業のいずれも改善。

機械器具部品製造業は3年ぶりのマイナス見通し。

不動産業は引き続き堅調を維持。

〔天気マークの見方〕



業種別天気図

数値は業況判断DI

業種	1～3月期 (前回)	4～6月期 (今回)	7～9月期 (予想)	業種	1～3月期 (前回)	4～6月期 (今回)	7～9月期 (予想)
全産業	9.6	14.5	12.7	印刷	30.8	53.8	46.2
製造業	19.2	17.8	15.0	食料品	7.4	7.1	17.9
非製造業	2.4	12.1	10.8	卸売業	16.4	22.3	18.9
自動車部品	43.3	33.7	17.3	小売業	22.6	21.0	27.4
機械器具部	7.1	2.7	0.9	飲食業	25.0	6.9	0.0
金属製品	11.4	21.6	13.5	建設業	10.9	11.6	8.9
窯業・土石	46.7	37.5	12.5	不動産業	20.0	13.2	21.0
木材・木製品	62.5	71.4	85.7	運輸業	9.6	14.7	6.1
繊維製品	4.4	0.0	21.8	サービス業	2.2	4.6	10.6

業況判断

	1~3月期 (前回)	4~6月期 (今回)	7~9月期 (予想)	変化幅			
				前回	今回	今回	予想
全産業	9.6	14.5	12.7	-4.9		1.8	
製造業	19.2	17.8	15.0	1.4		2.8	
非製造業	2.4	12.1	10.8	-9.7		1.3	

(単位：%ポイント　　はマイナス)

〔全産業〕

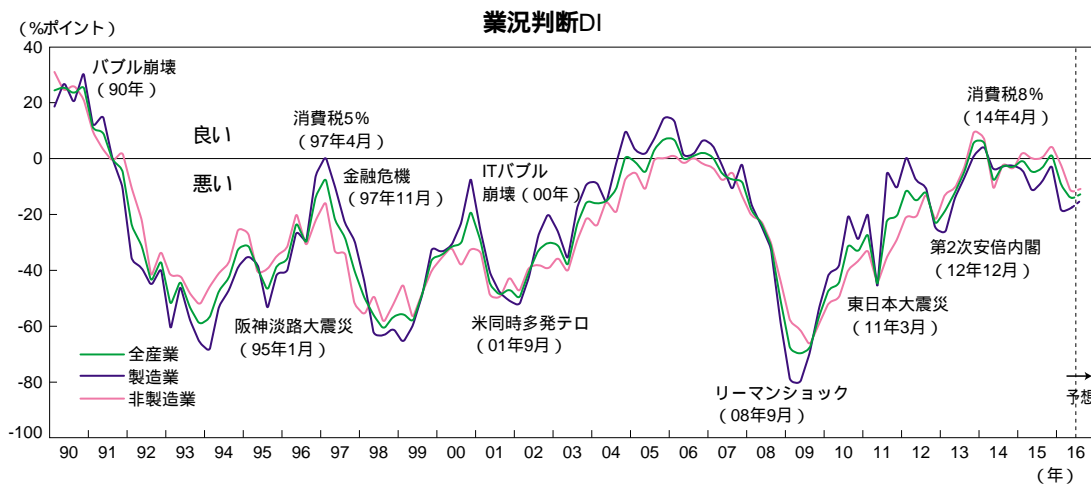
4~6月期の企業の景況感を表す**業況判断DI**（業況を「良い」と答えた企業の割合から「悪い」と答えた企業の割合を差し引いた値）はマイナス14.5となり、1~3月期（マイナス9.6）にくらべ4.9ポイント悪化した。悪化は2四半期連続。

7~9月期の**予想業況判断DI**はマイナス12.7。1.8ポイント改善する見通し。

〔製造業〕

業況判断DIはマイナス17.8。1~3月期（マイナス19.2）にくらべ1.4ポイント改善。

- DIが改善したのは、自動車部品、窯業・土石、繊維製品、食料品。悪化したのは、機械器具部品、金属製品、木材・木製品、印刷。
- 自動車部品は、前回調査時には大幅改善が予想されていたが、実際には比較的小幅な改善にとどまった。熊本地震で工場を停止した影響が出た。
- 機械器具部品は2四半期連続でDIが悪化。マインド後退が鮮明になっている。ただし、DIの水準は製造業のなかで唯一プラスを維持。
- 窯業・土石は2四半期ぶりの改善。一部の瓦メーカーから「地震で住宅修繕が増え、出荷量が増えた」の声もある。



予想業況判断DIはマイナス15.0と、改善の見通し。

- 自動車部品と窯業・土石は引き続き改善する予想。
- 機械器具部品は3年ぶりとなるマイナス予想。円高の進行や海外経済の減速で。

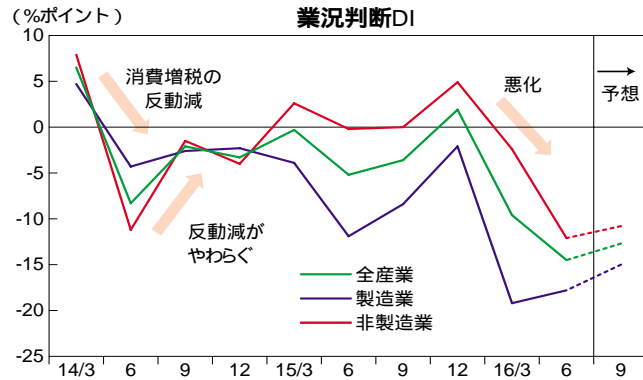
〔非製造業〕

業況判断DIはマイナス12.1。1～3月期（マイナス2.4）にくらべ9.7ポイント悪化。

- DIが改善したのは、小売業と飲食業。悪化したのは、卸売業、建設業、不動産業、運輸業、サービス業。
- 卸売業では機械器具卸でDIが大幅悪化。部分的に熊本地震の影響がみられた。
- 建設業は3年半ぶりのマイナスに。予算執行の端境期にあった公共工事業で悪化が目立つ。金利低下の追い風が吹いている住宅建設業は、じっくりと住宅購入を検討する顧客も増えているようで受注が上向いていない。
- 不動産業は7四半期連続のDIプラス。底堅い景況が続いている。
- サービス業は三四半期ぶりのマイナス。法人向けサービス・個人向けサービスがそろって悪化。景気先行き懸念が響く。

予想業況判断DIはマイナス10.8。改善の見通し。

- 卸売業、飲食業、建設業、不動産業、運輸業で改善予想。
- 飲食業は判断DIが9年ぶりにマイナス領域から脱する見通し。「消費増税が延期されて安堵した」との声もある。
- 不動産業は引きつづき堅調を維持。



4～6月期の業況		
	改善した業種	悪化した業種
製造業	自動車部品 窯業・土石 繊維製品 食料品	機械器具部品 金属製品 木材・木製品 印刷
非製造業	小売業 飲食業	卸売業 建設業 不動産業 運輸業 サービス業

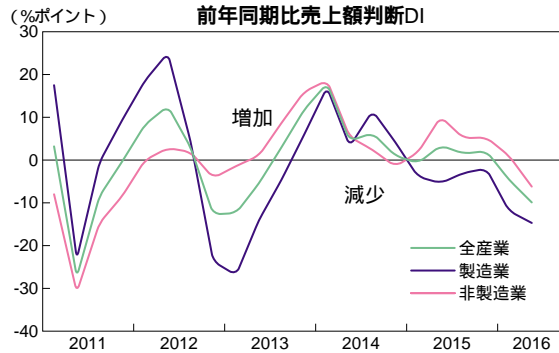
7～9月期の予想		
	改善予想の業種	悪化予想の業種
製造業	自動車部品 金属製品 窯業・土石 印刷	機械器具部品 木材・木製品 繊維製品 食料品
非製造業	卸売業 飲食業 建設業 不動産業 運輸業	小売業 サービス業

売上額・収益

〔全産業〕

前年同期比売上額判断DI（売上額が前年同期とくらべ「増加」したと答えた企業の割合から「減少」したと答えた企業の割合を差し引いた値）はマイナス9.9〔減少〕。

前年同期比収益判断DI（収益が前年同期とくらべ「増加」したと答えた企業の割合から「減少」したと答えた企業の割合を差し引いた値）はマイナス12.8〔減少〕。

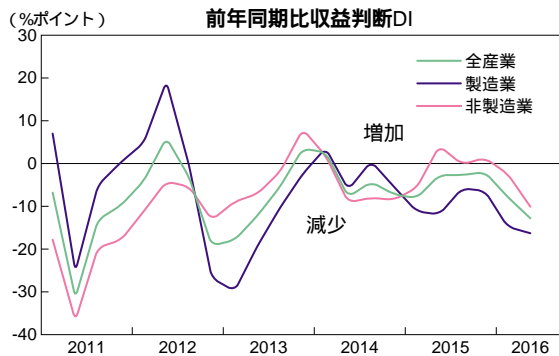


〔製造業〕

前年同期比売上額判断DIはマイナス14.7〔減少〕。

前年同期比収益判断DIはマイナス16.3〔減少〕。

- ・食料品を除くすべての製造業種で減収減益。食料品だけが減収増益。
- ・自動車部品は7四半期連続の減収減益。機械器具部品は3年ぶりに減収。



〔非製造業〕

前年同期比売上額判断DIはマイナス6.2〔減少〕。

		前年同期に比べた売上額	
		増加した業種	減少した業種
製造業	↑		自動車部品 機械器具部品 金属製品 窯業・土石 木材・木製品 繊維製品 印刷 食料品
非製造業	↑	不動産業 サービス業	卸売業 小売業 飲食業 建設業
		運輸業は横ばい	

		前年同期に比べた収益	
		増加した業種	減少した業種
製造業	↑	食料品	自動車部品 機械器具部品 金属製品 窯業・土石 木材・木製品 繊維製品 印刷
非製造業	↑	不動産業 サービス業	卸売業 小売業 飲食業 建設業 運輸業

前年同期比収益判断DIはマイナス10.1〔減少〕。

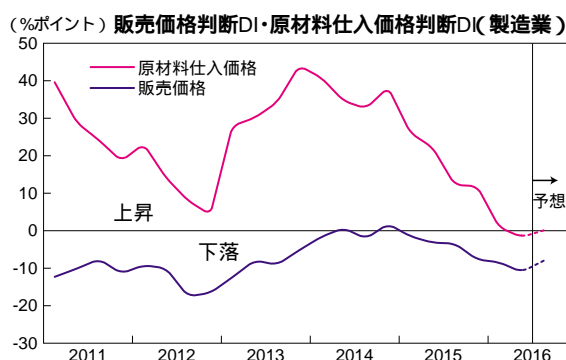
・不動産業とサービス業はともに6四半期連続の増収増益。

販売価格・仕入価格

〔全産業〕

販売価格判断DI（販売価格が3ヵ月前とくらべ「上昇」と答えた企業の割合から「下落」と答えた企業の割合を差し引いた値）はマイナス6.0〔下落〕。

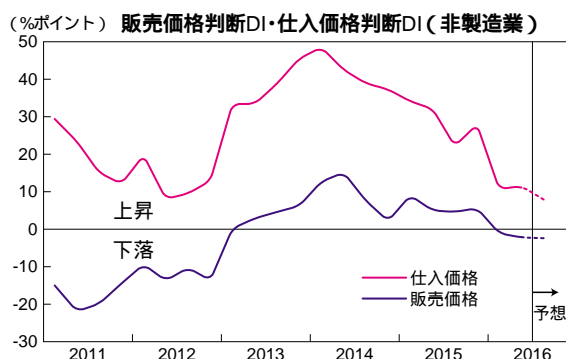
仕入価格判断DI（仕入価格が3ヵ月前とくらべ「上昇」と答えた企業の割合から「下落」と答えた企業の割合を差し引いた値）は5.7〔上昇〕となった。



〔製造業〕

販売価格判断DIはマイナス11.0〔下落〕。

原材料仕入価格判断DIはマイナス1.7〔下落〕。DIがマイナスに転じるのは2009年10～12月期以来、6年半ぶり。原材料の上昇傾向がようやく収まった恰好。



〔非製造業〕

販売価格判断DIはマイナス2.2〔下落〕。

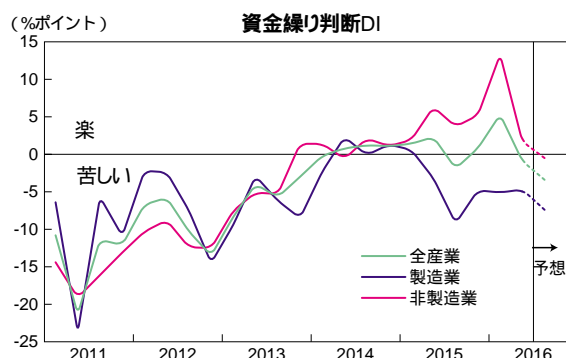
仕入価格判断DIは11.5〔上昇〕。

資金繰り

〔全産業〕

資金繰り判断DI（資金繰りが3ヵ月前とくらべ「楽」と答えた企業の割合から「苦しい」と答えた企業の割合を差し引いた値）はマイナス0.9〔苦しい〕。

予想資金繰り判断DIはマイナス3.4〔苦しい〕。



〔製造業〕

資金繰り判断DIはマイナス4.7〔苦しい〕。

予想資金繰り判断DIはマイナス7.4〔苦しい〕。

〔非製造業〕

資金繰り判断DIは1.7〔楽〕。

予想資金繰り判断DIはマイナス0.5〔苦しい〕。

雇用

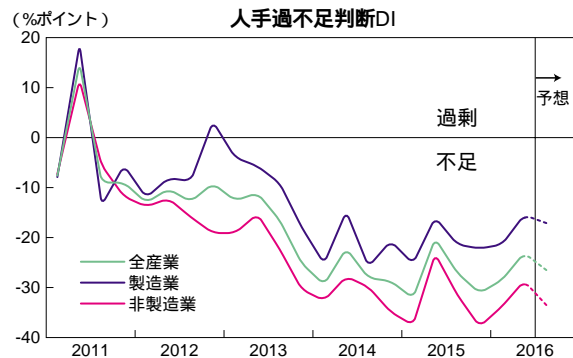
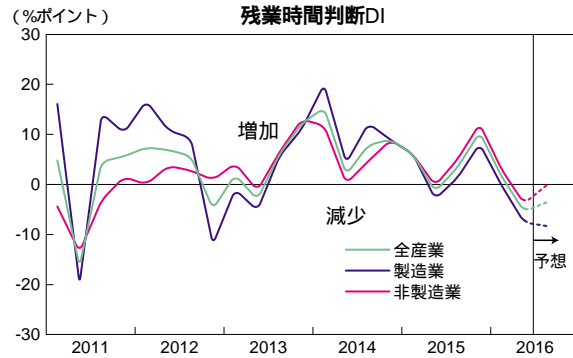
〔全産業〕

残業時間判断DI（残業時間が3ヵ月前とくらべ「増加」と答えた企業の割合から「減少」と答えた企業の割合を差し引いた値）はマイナス5.4〔減少〕。1年ぶりに減少に転じた。

予想残業時間判断DIはマイナス3.6〔減少〕。

人手過不足判断DI（人手が「過剰」と答えた企業の割合から「不足」と答えた企業の割合を差し引いた値）はマイナス23.1〔不足〕となり、人手不足感は収まっていない。

予想人手過不足判断DIはマイナス26.5〔不足〕となっている。



〔製造業〕

残業時間判断DIはマイナス7.6〔減少〕。機械器具部品と食料品を除き、すべての製造業種で残業時間が減っている。

		3ヵ月前と比べた残業時間	
		増加した業種	減少した業種
製造業	 機械器具部品 食料品	自動車部品	金属製品
		窯業・土石	木材・木製品
非製造業	 運輸業	小売業	飲食業
		建設業	不動産業
		卸売業は変わらず	

		人手過不足感	
		人手過剰の業種	人手不足の業種
製造業	 木材・木製品 印刷	自動車部品	機械器具部品
		金属製品	窯業・土石
非製造業		卸売業	小売業
		飲食業	建設業
		不動産業	運輸業
		サービス業	

予想残業時間判断DIはマイナス8.3〔減少〕。

人手過不足判断DIはマイナス15.5〔不足〕。予想人手過不足判断DIはマイナス17.1〔不足〕。

〔非製造業〕

残業時間判断DIはマイナス3.8〔減少〕。1年ぶりの減少。

予想残業時間判断DIはマイナス0.2〔減少〕。

人手過不足判断DIはマイナス28.7〔不足〕。予想人手過不足判断DIはマイナス33.5〔不足〕。

設 備

〔全産業〕

設備過不足判断DI（設備が「過剰」と答えた企業の割合から「不足」と答えた企業の割合を差し引いた値）はマイナス4.5〔不足〕となった。

予想設備過不足判断DIはマイナス6.4〔不足〕。

4～6月期に設備投資（リース・レンタルを含む）を実施した企業は27.1%。（1～3月期は30.5%）

7～9月期に設備投資を計画している企業は26.2%。

〔製造業〕

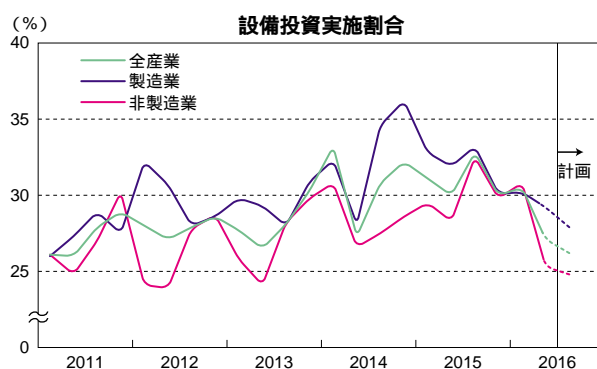
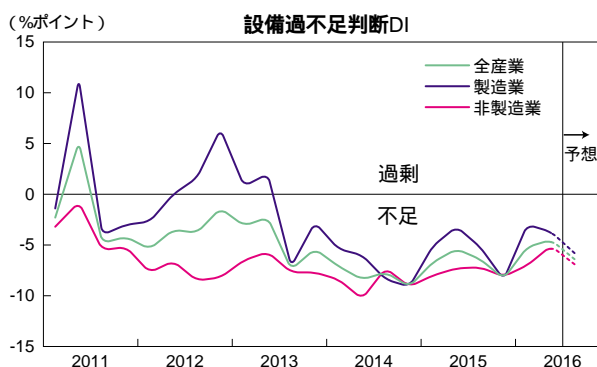
設備過不足判断DIはマイナス3.7〔不足〕。

予想設備過不足判断DIはマイナス5.8〔不足〕。

4～6月期に設備投資（リース・レンタルを含む）を実施した企業は29.2%。（1～3月期は30.2%）

- ・ 内訳は「機械・設備の新增設」が55.7%、「機械・設備の更改」が32.1%、「車両」が20.8%、「事務機器」が17.9%などとなっている。
- ・ 設備投資の目的は「老朽化にともなう更新」が48.1%、「能力増強」が39.6%、「合理化・省力化」が21.7%となった。

7～9月期に設備投資を計画している企業は27.9%。



〔非製造業〕

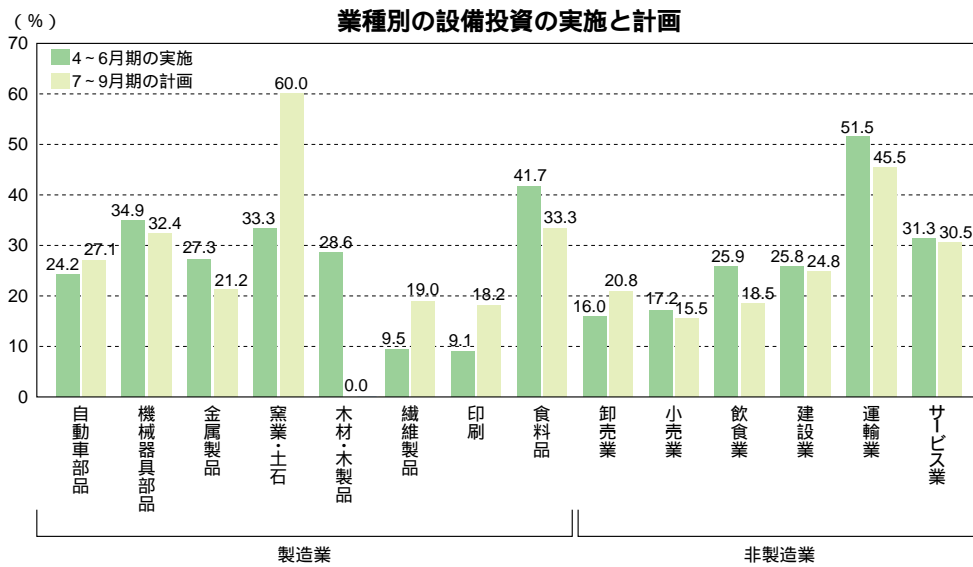
設備過不足判断DIはマイナス5.1〔不足〕。

予想設備過不足判断DIはマイナス6.9〔不足〕。

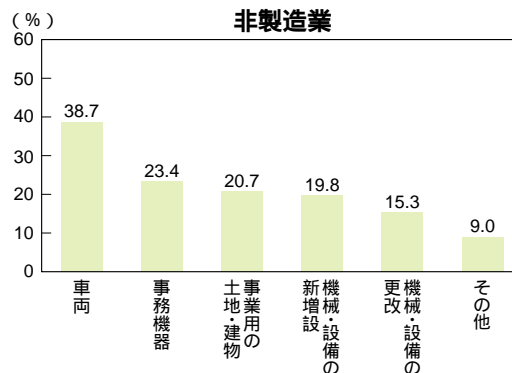
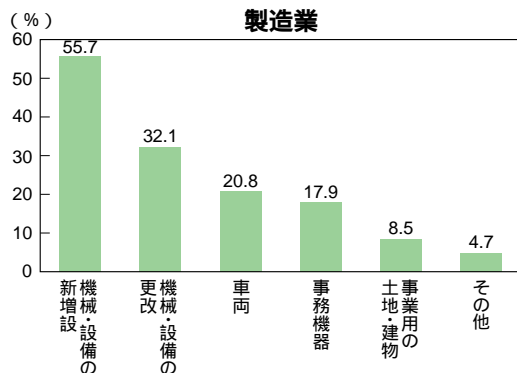
4～6月期に設備投資（リース・レンタルを含む）を実施した企業は25.3%。（1～3月期は30.8%）

- ・ 内訳は「車両」が38.7%、「事務機器」が23.4%、「事業用土地・建物」が20.7%、「機械・設備の新增設」が19.8%となっている。
- ・ 設備投資の目的は「老朽化にともなう更新」が55.0%、「販売拡大」が19.8%、「合理化・省力化」が18.0%、「競争力の維持・強化」が13.5%となった。

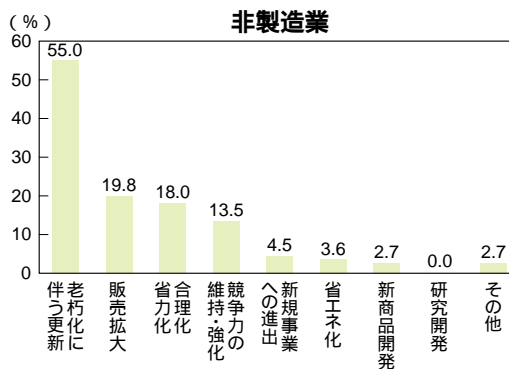
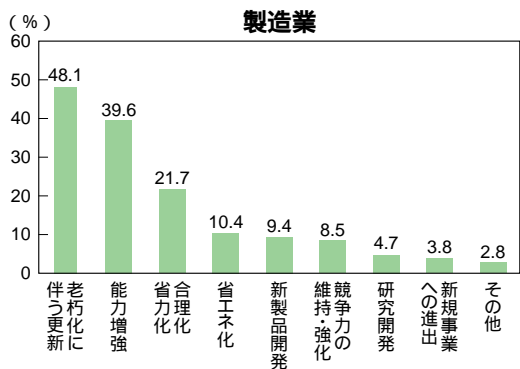
7～9月期に設備投資を計画している企業は24.8%。



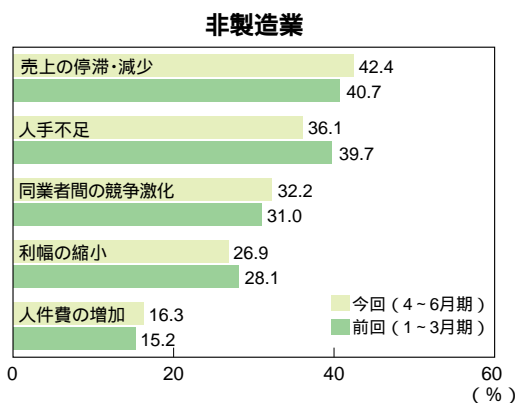
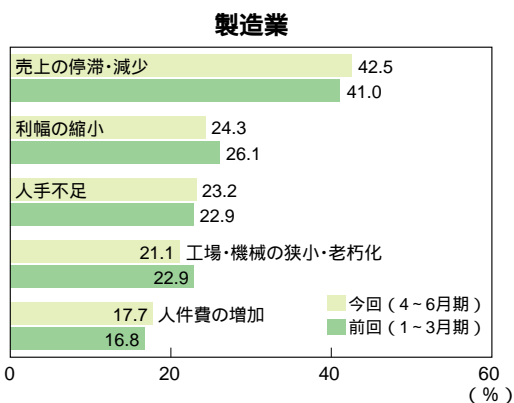
4～6月期の設備投資の内訳



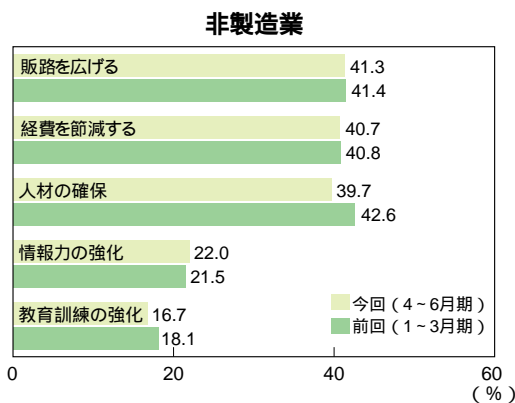
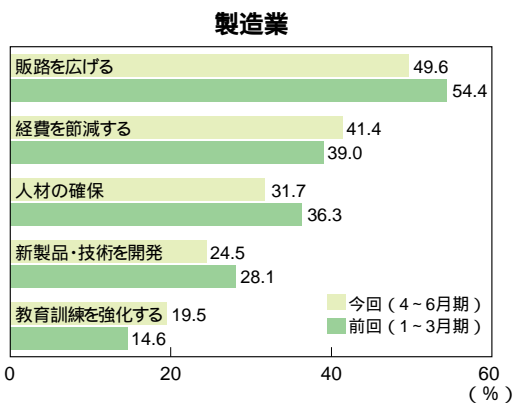
4～6月期の設備投資の主な目的



経営上の問題点



当面の重点経営施策



業種別動向

製造業

自動車部品

4～6月期の景況 DIは小幅改善にとどまる、熊本地震の影響で

7～9月期の予想 挽回生産で景況感改善へ、強気予想は少ない

4～6月期の景況

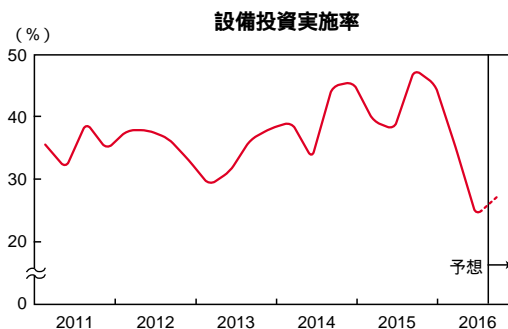
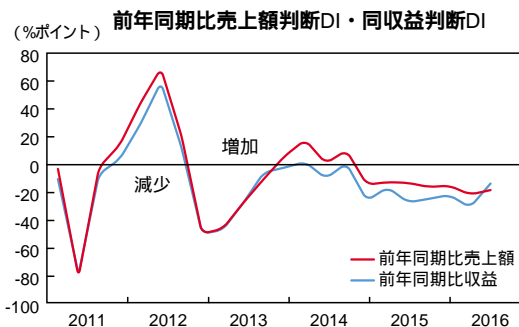
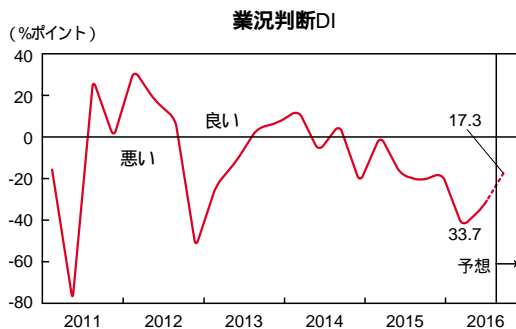
業況判断DIは 33.7となり、1～3月期（ 43.3）に比べ9.6ポイント改善した。改善は2四半期ぶり。前回調査時には大幅な改善が予想されていたが、実際には比較的小幅な改善にとどまった。1月の爆発事故ともなうトヨタ自動車の挽回生産のさなかに熊本地震が発生。それが影響したとみられる。

足元の動向をあらわす前年同期比売上額判断DIは 18.2〔減少〕、同収益判断DIは 13.5〔減少〕。売上・収益がそろってマイナスになるのは7四半期連続。

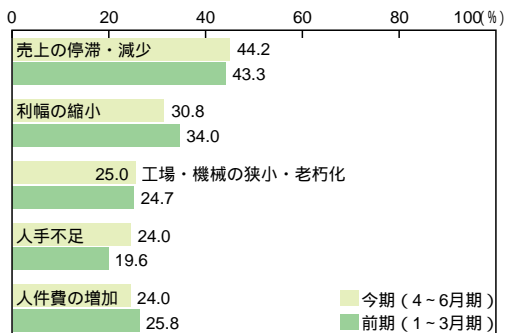
設備投資の実施率も急低下した。

7～9月期の予想

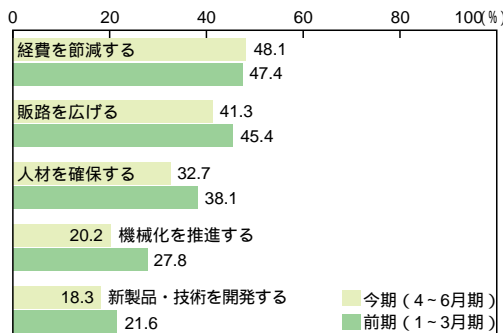
予想業況判断DIは 17.3。4～6月期に比べ改善の見通し。トヨタ自動車地震の影響などで遅れた生産を取り戻すのにもない部品メーカーにも動きがみられそうだが、どんな車種の部品を扱っているかによって受注量などにバラつきがみられる。強気予想する企業は比較的少ない。



経営上の問題点



当面の重点経営施策



4～6月期の景況 2四半期連続で景況感悪化、売上・収益そろって減少
 7～9月期の予想 予想DIはマイナス、先行きに慎重な構え

■ 4～6月期の景況

業況判断DIは2.7。1～3月期(7.1)にくらべ悪化した。悪化は2四半期連続。DIはかろうじてプラスにとどまったが、マインド後退が明らかになっている。

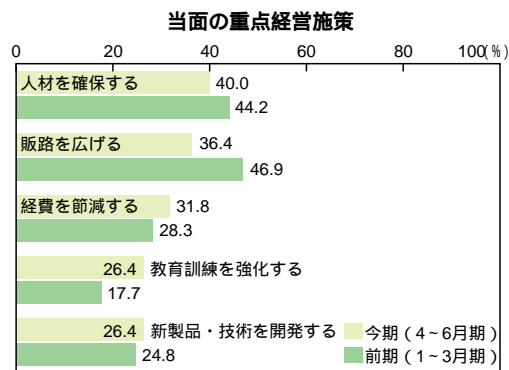
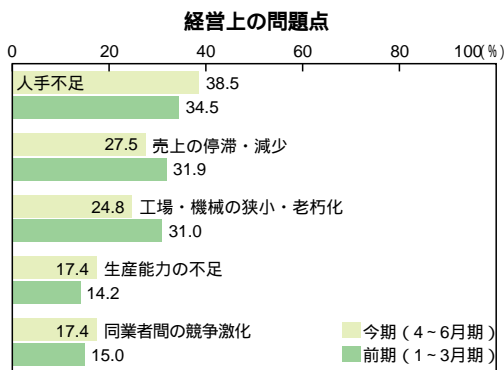
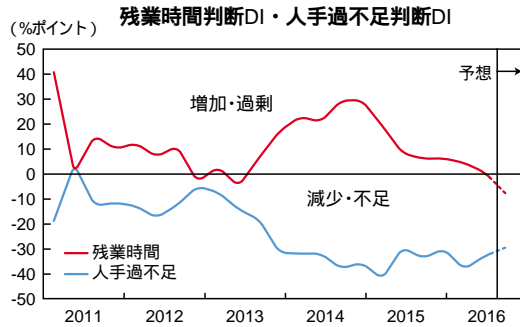
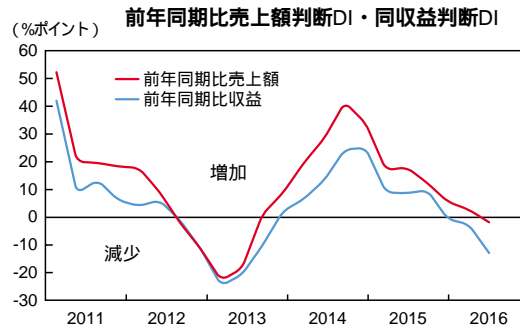
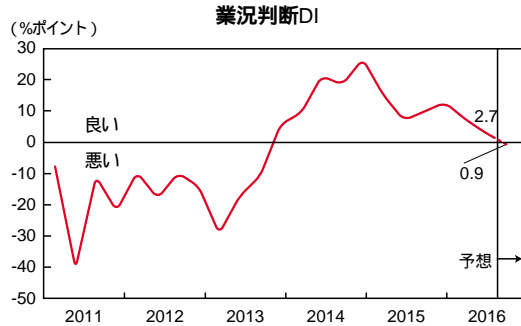
前年同期比売上額判断DIは3年ぶりのマイナス。同収益判断DIは3四半期連続のマイナス。足元は減収減益の状態に陥っている。

国内外の景気先行きに不透明感が広がり、設備投資意欲が減退していることが主因とみられる。一部で熊本地震の影響も出ている。

人手過不足判断DIをみると、依然として深い不足領域にあって、問題点のトップには「人手不足」、重点経営施策のトップには「人材の確保」があがっている。

■ 7～9月期の予想

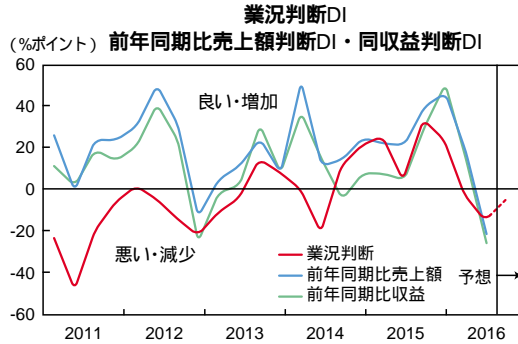
予想業況判断DIは 0.9。予想どおりならば、3年ぶりのマイナスに。円高や海外経済の減速で、先行き慎重に構える企業が増えているのではないか。



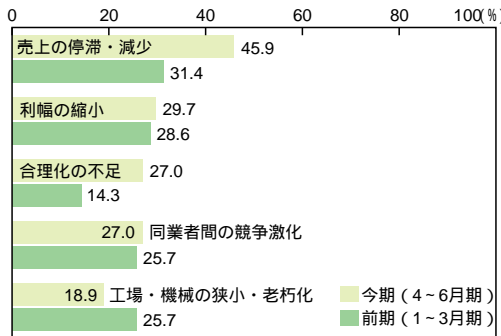
▶ 【金属製品】

業況判断DIは 21.6。1～3月期（ 11.4）に比べ悪化した。悪化は3四半期連続。これまで上向きだった前年同期比売上額や同収益の判断DIもマイナスに転じた。地震の影響が部分的に出たとみられる。

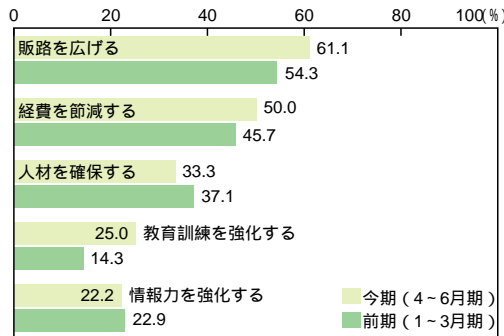
予想業況判断DIは 13.5と、水面下ながら改善の予想。問題点に「売上の停滞・減少」「合理化の不足」をあげる企業が増えている。



経営上の問題点



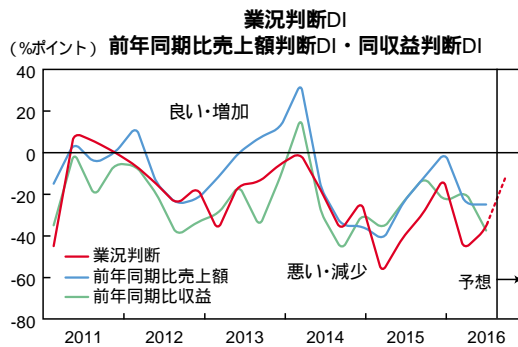
当面の重点経営施策



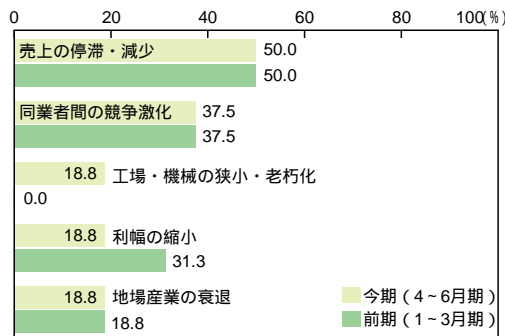
▶ 【窯業・土石】

業況判断DIは 37.5。1～3月期（ 46.7）に比べ改善した。改善は2四半期ぶりのことだが、DIの水準としてはマイナスが続いており、総じて低調感の否めない状況。粘土瓦メーカーからは「地震で住宅修繕が増え、出荷量が増えた」との声もあった。

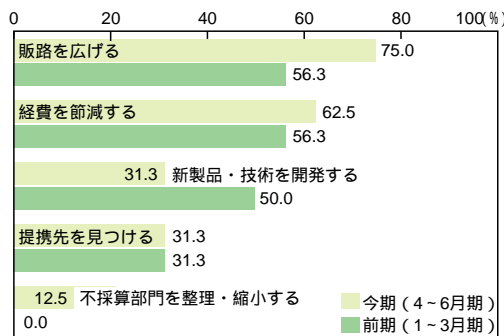
予想業況判断DIは 12.5。水面下ながら改善の予想。



経営上の問題点



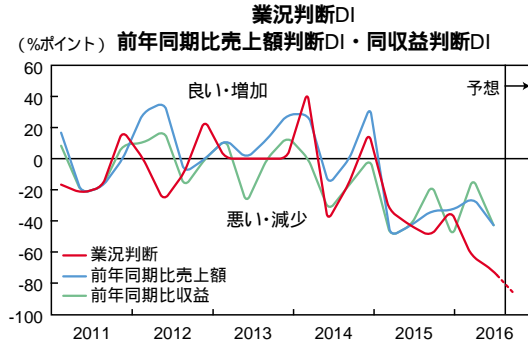
当面の重点経営施策



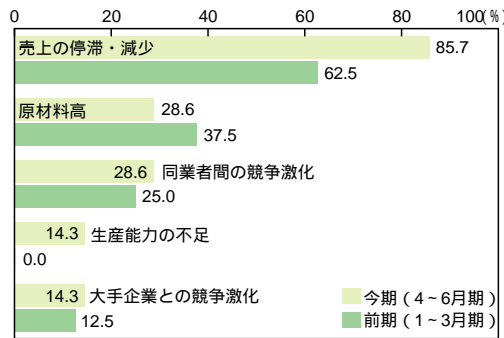
■【木材・木製品】

業況判断DIは 71.4。1~3月期 (62.5)
にくらべ悪化した。DIは依然として深いマイ
ナス領域にあって、総じて厳しい業況を
余儀なくされている。経営環境に改善がみ
られない。

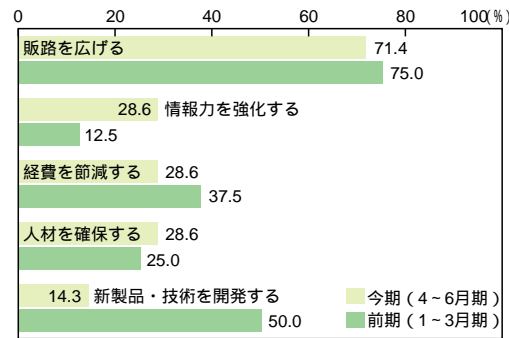
予想業況判断DIは 85.7。業況を「良い」
と予想した企業は1社もなかった。



経営上の問題点



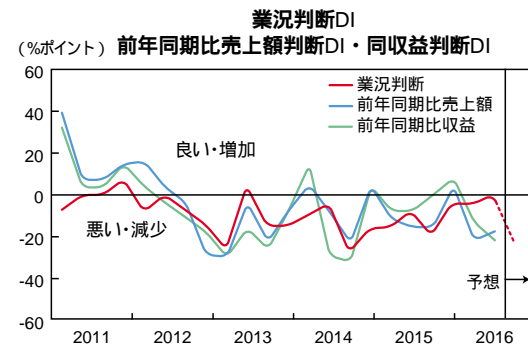
当面の重点経営施策



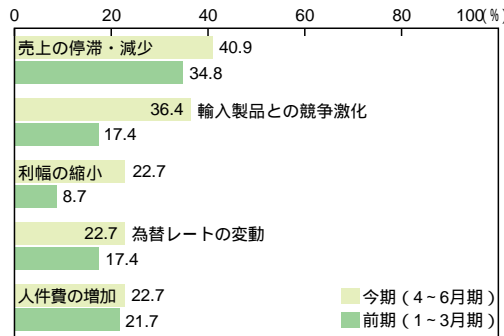
■【繊維製品】

業況判断DIは0.0。1~3月期 (4.4) にく
らべ改善した。3年ぶりにマイナスを免れた
格好にはなったが、足元の売上や収益は上
向かず、全体として停滞感がある。問題点
に「輸入製品との競争激化」をあげる企業
が増えており、円高進行の影響も出ている
もよう。

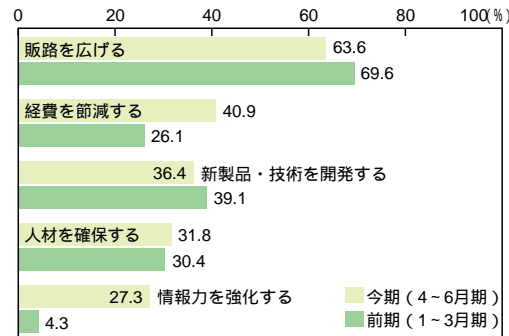
予想業況判断DIは 21.8。



経営上の問題点



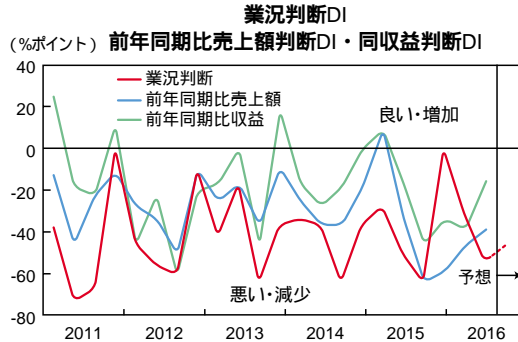
当面の重点経営施策



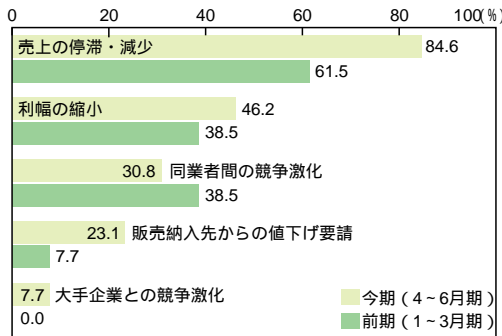
▶ 【印刷】

業況判断DIは 53.8。1~3月期 (30.8) にくらべ大幅に悪化した。悪化は2四半期連続。業況を「良い」と答えた企業が1社もなかった。売上や収益も振るわず、厳しい経営環境が続いている。経営上の問題点では「売上の停滞・減少」を訴える企業が8割を超えた。

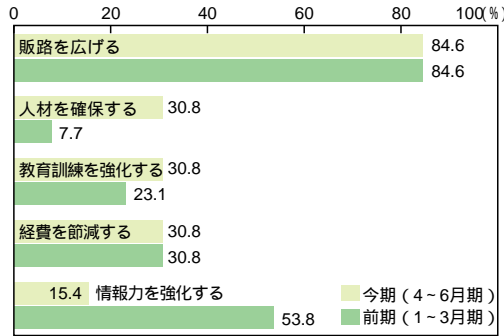
予想業況判断DIは 46.2。



経営上の問題点



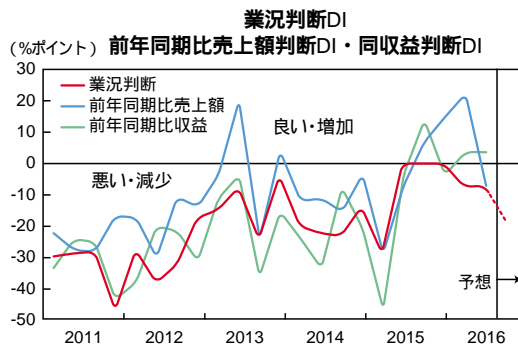
当面の重点経営施策



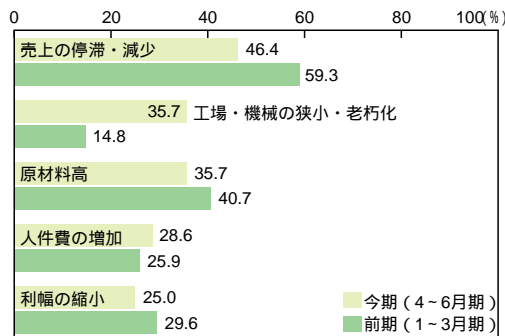
▶ 【食品】

業況判断DIは 7.1。1~3月期 (7.4) にくらべ、ほぼ横ばい推移した。前年同期比売上額判断DIは 7.1〔減少〕、同収益判断DIは3.6〔増加〕。収益判断がプラスになったのは製造業の中では食品のみ。

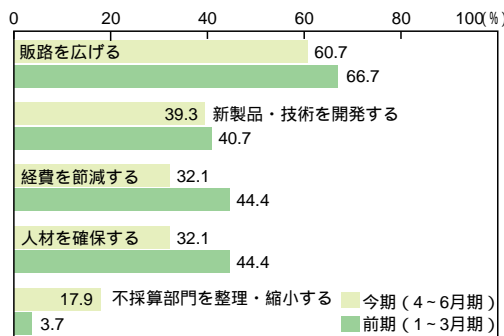
予想業況判断DIは 17.9。悪化の予想。



経営上の問題点



当面の重点経営施策



4～6月期の景況 2四半期連続で景況感悪化、機械器具のDI大幅に低下
 7～9月期の予想 食料・飲料はプラスへ、農畜産物・水産物、建設材料は悪化

■4～6月期の景況

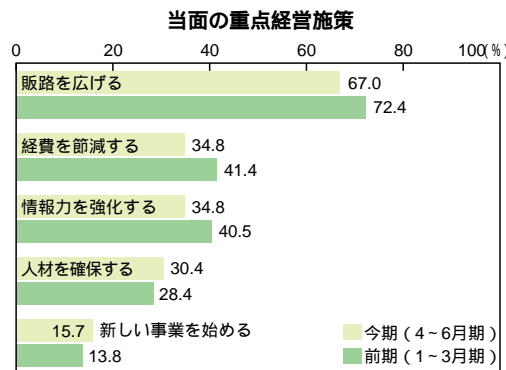
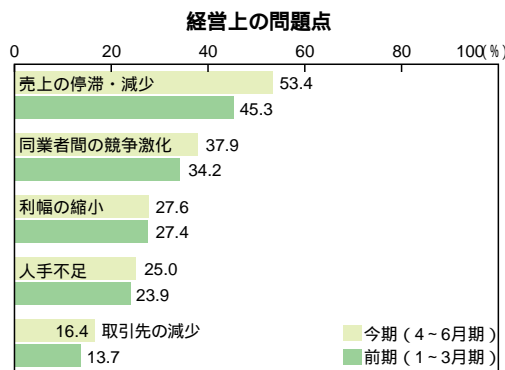
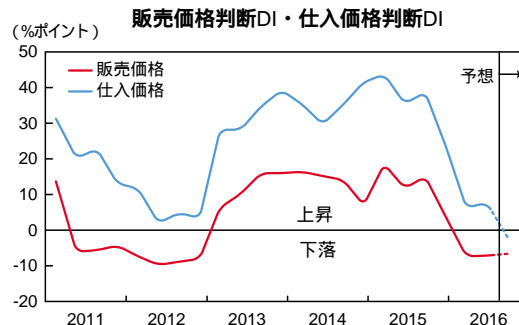
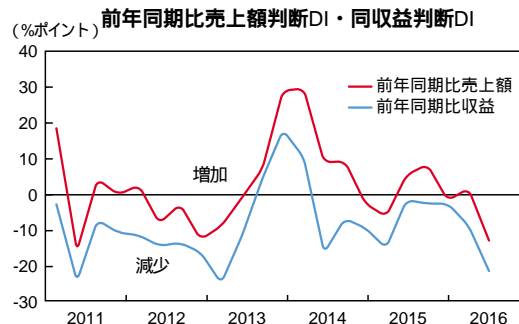
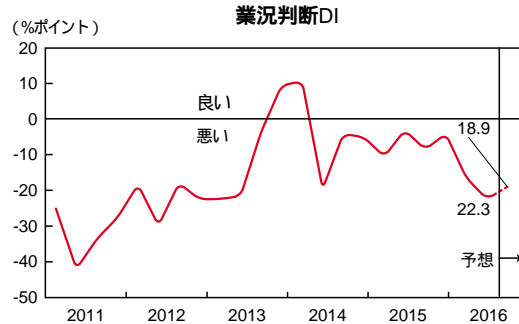
業況判断DIは 22.3と、1～3月期(16.4) にくらべ悪化した。2四半期連続の悪化。とくに機械器具卸で大幅なDIの低下がみられ、トヨタ自動車の稼働停止や熊本地震が少なからず影響した。

足元の動向を示す前年同期比売上額判断DIは 12.8〔減少〕、同収益判断DIは 21.3〔減少〕。ともに1～3月期にくらべ大きく変化しており、減収減益になった企業が急に増えたことがうかがえる。問題点では「売上の停滞・減少」のポイントが上昇している。

■7～9月期の予想

予想業況判断DIは 18.9と、改善の見通し。食料・飲料卸は1年ぶりのプラス浮上を予想。農畜産物・水産物卸、建設材料卸は悪化。

業況判断DI	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月(予想)
農畜産物・水産物	10.5	21.0	0.0	35.3
食料・飲料	36.4	38.4	7.7	15.4
機械器具	21.4	11.1	28.6	22.2
建設材料	9.6	0.0	27.7	33.3



4～6月期の景況 仕入価格の上昇傾向強まる、食品などの値上がり影響が
 7～9月期の予想 予想DI悪化へ、重点施策に「売れ筋商品の取扱い」増える

■4～6月期の景況

業況判断DIは 21.0と、1～3月期(22.6)
 にくらべやや改善した。改善は2四半期連続。
 ただしDIは依然マイナス領域にあって景況
 感は冴えない。

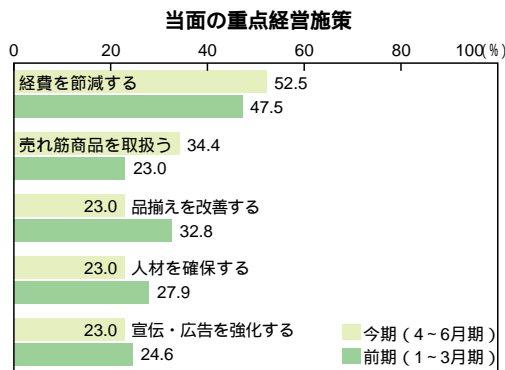
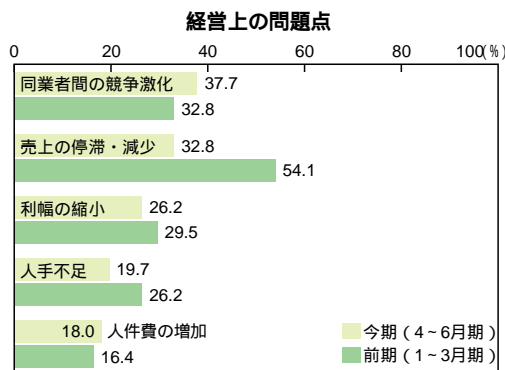
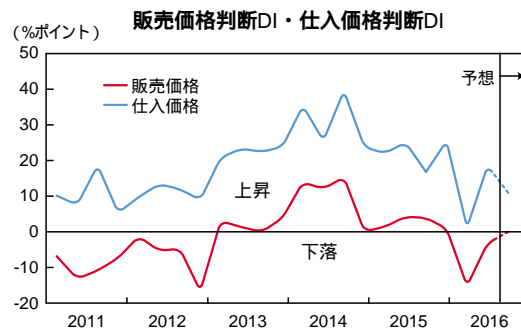
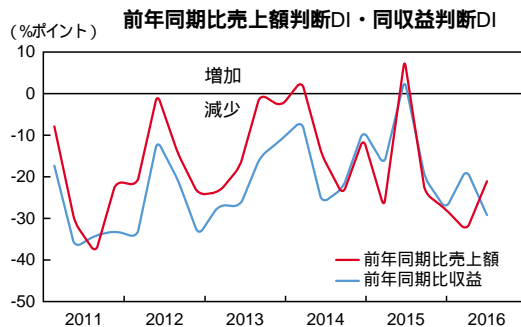
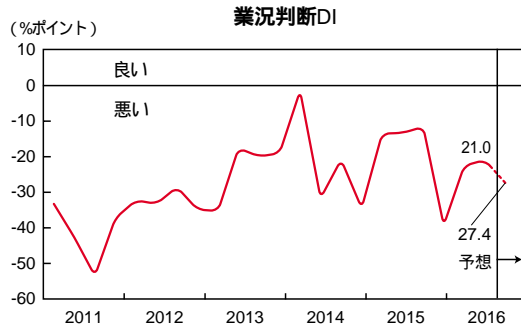
前年同時期に比べた売上額や収益の判断
 DIもともにマイナス。減収減益が長引いて
 いる。とくに収益DIのマイナス幅が拡大し
 ている。熊本地震の影響で食品などの仕入
 価格が上昇、それが利幅縮小を招いたのが
 原因のひとつとみられる。

経営上の問題点では「同業者間の競争激
 化」を挙げる割合が増加している。

■7～9月期の予想

予想業況判断DIは 27.4。4～6月期にく
 らべ悪化する見通し。

重点経営施策をみると、「売れ筋商品を取
 扱う」の回答が増えているのが目につく。



4～6月期の景況 持ち直しのトレンドづく、深刻な人手不足
 7～9月期の予想 判断DIのマイナス解消へ、「悪い」の予想減る

■ 4～6月期の景況

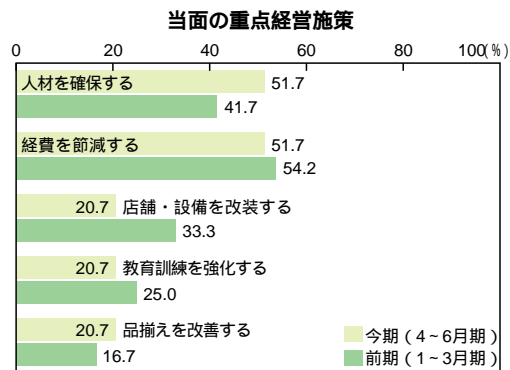
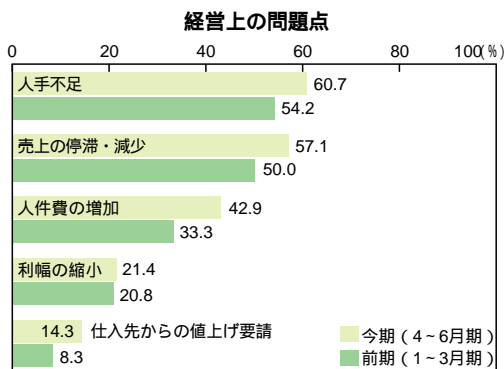
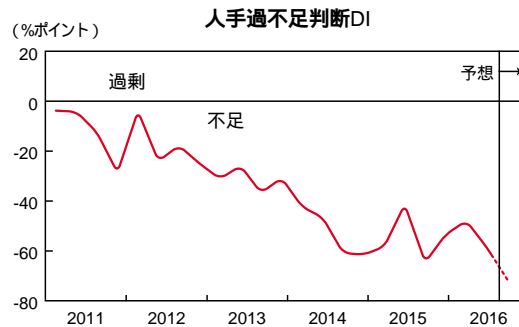
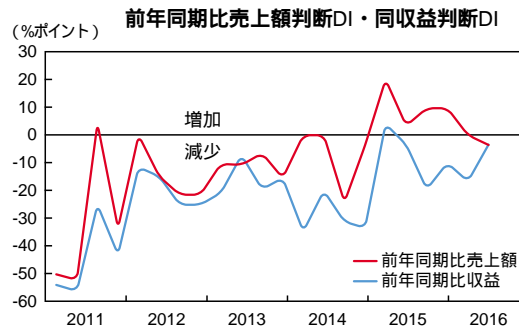
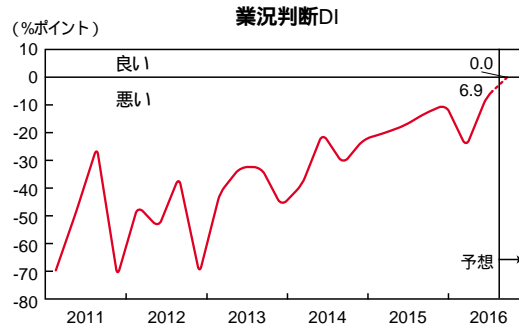
業況判断DIは 6.9と、1～3月期（ 25.0）に比べ改善した。改善は2四半期ぶり。依然DIは水面下にとどまっているが、ここ2～3年の推移には明らかに持ち直しのトレンドがみられる。

足元の動向を表す前年同期比売上額判断DI、同収益判断DIもマイナス〔減少〕となったが、その幅は小さい。

懸念材料は人手不足。人手過不足判断DIは 58.6〔不足〕。経営上の問題点でも「人手不足」を挙げた回答が6割を超えている。

■ 7～9月期の予想

予想業況判断DIは0.0と、マイナス領域から脱する見通しとなった。予想どおりならば、2007年7～9月期以来、およそ9年ぶりのことになる。「消費税増税が延期され安堵した」との声もあって、業況を「悪い」と予想する企業は減る傾向にある。



4～6月期の景況 3年半ぶりのマイナス、公共工事業の悪化響く

7～9月期の予想 景況感の小幅改善を見込む、懸念材料は人手不足

■4～6月期の景況

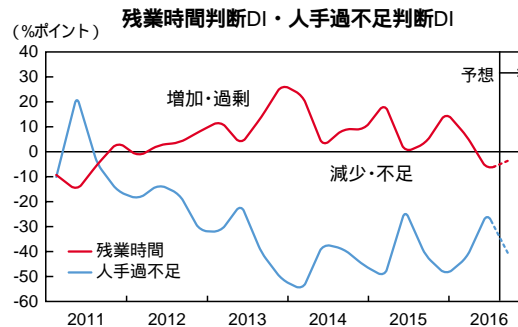
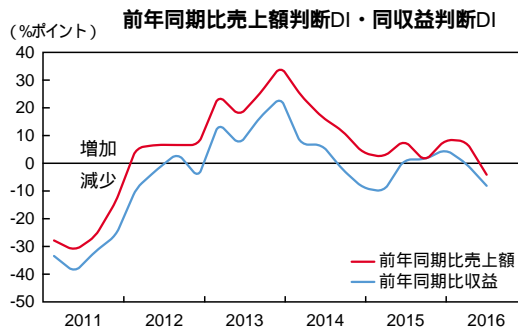
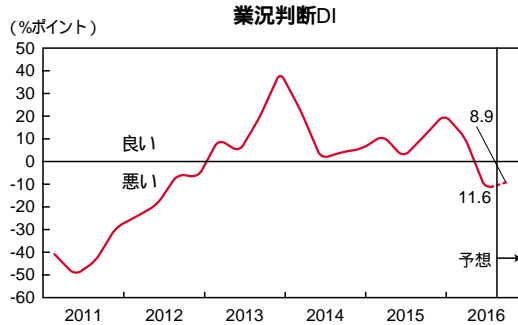
業況判断DIは 11.6。1～3月期（10.9）に比べ22.5ポイント低下し、3年半ぶりにマイナスに転じた。

予算執行の端境期にあった公共工事業でDIの悪化が目立った。入札物件の競合が激化しているとの声もある。住宅ローン金利の低下という追い風が吹いている住宅建設業は、消費増税延期の影響からか、じっくりと住宅購入を検討する顧客も増えているようで、いまのところ受注が上向いていない。

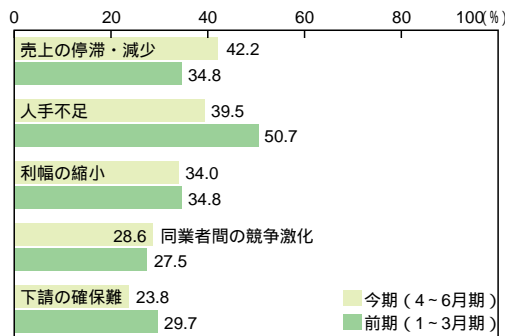
■7～9月期の予想

予想業況判断DIは 8.9と、小幅に改善する見通し。設備工事業はプラスを維持する予想だが、公共工事業や住宅建設業は冴えない状況が続くそうである。人手不足は引き続き懸念材料。

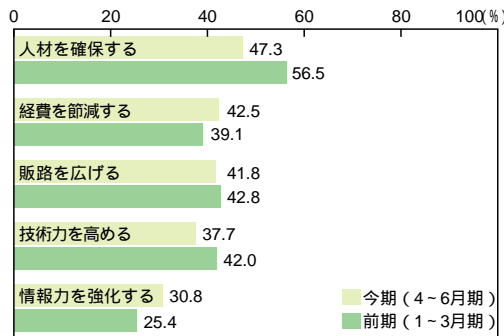
業況判断DI	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月 (予想)
公共工事業	20.0	32.0	21.4	28.6
住宅建設業	0.0	7.4	28.6	21.4
設備工事業	34.2	20.5	5.4	2.7



経営上の問題点



当面の重点経営施策



4～6月期の景況 景況感は7四半期連続プラス、同業者間競争が激化
 7～9月期の予想 予想DI改善へ、重点施策に「情報力の強化」

■4～6月期の景況

業況判断DIは13.2。1～3月期（20.0）にくらべ6.8ポイント低下。マインドに若干の鈍化がみられるが、DIのプラスは7四半期連続。非製造業では唯一のプラス。底堅い景況が続いている。

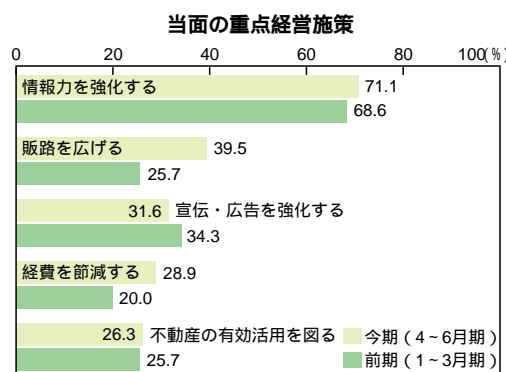
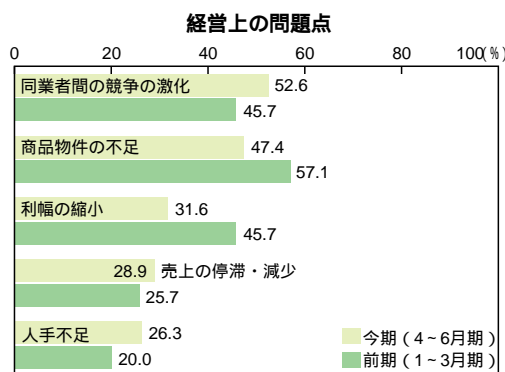
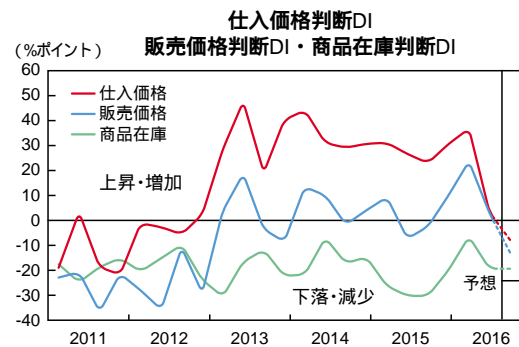
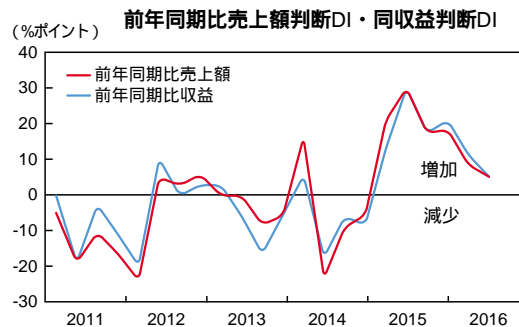
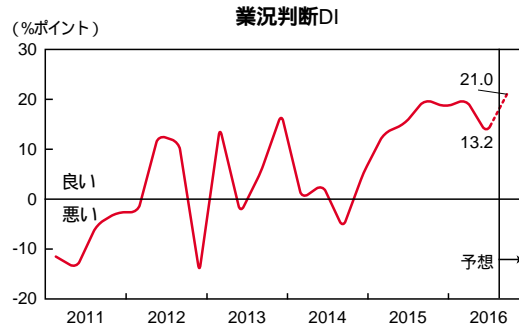
前年同期比売上額判断DIは5.3〔増加〕、同収益判断DIも5.3〔増加〕。6四半期続の増収増益。

商品在庫に不足感がみられ、物件の不足から同業者間の競争が激化しつつある。

■7～9月期の予想

予想業況判断DIは21.0。4～6月期にくらべ改善が見込まれている。マイナス金利が不動産需要の追い風になるとみて、強気な姿勢を崩さない企業もある。

重点経営施策には「情報力の強化」をあげるところが多い。



4～6月期の景況 景況感が大幅悪化、DIは2年ぶりのマイナス
 7～9月期の予想 見通しは改善、人手不足収まらず残業増加へ

■4～6月期の景況

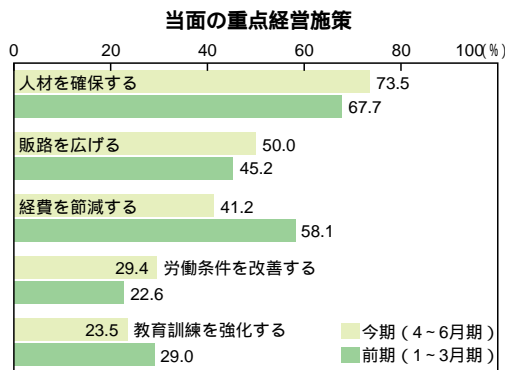
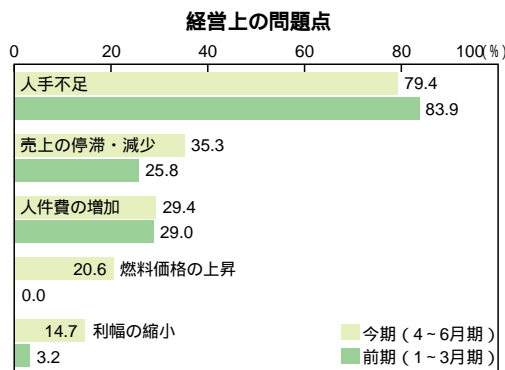
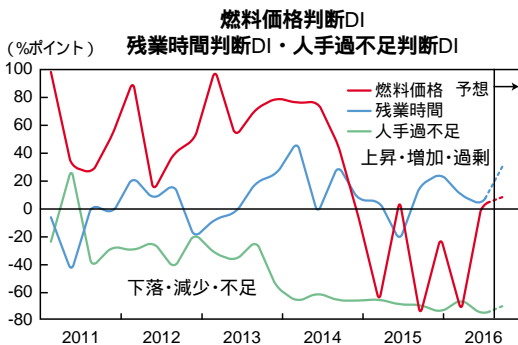
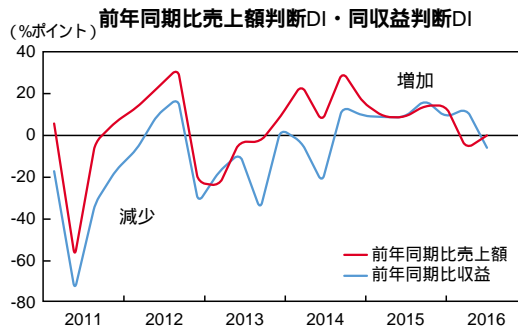
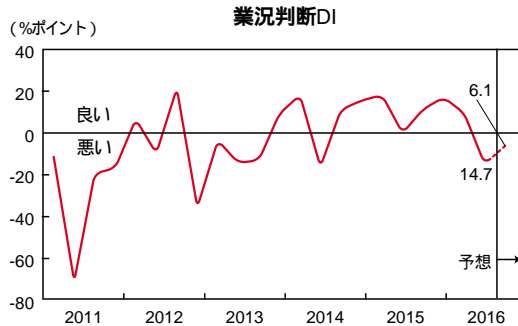
業況判断DIは 14.7と、1～3月期（9.6）にくらべ24.3ポイント低下した。2四半期連続の悪化。悪化幅は全業種中で最大。前回調査時の予想（6.7）から一転、2年ぶりのマイナスに陥った。トヨタ自動車の挽回生産で輸送量が増えると期待していた部品運送業に、熊本地震の影響が少なからずあったのが主因とみられる。

前年同期比収益判断DIは 5.9〔減少〕。7四半期続いていた増益が途切れた。下落傾向にあった燃料価格が上昇に転じたことが響いた。

人手（ドライバー）不足は依然として深刻。過不足判断DIは 75.8〔不足〕。問題点でも「人手不足」がトップに。採用活動費の負担が大きくなっているとの声もある。

■7～9月期の予想

予想業況判断DIは 6.1。自動車部品などの輸送量が増える見通し。人手不足感は収まる気配がなく、残業を増やすところも見られそうだ。



4～6月期の景況 法人・個人そろって悪化、景気先行き懸念で

7～9月期の予想 予想業況判断DI悪化へ、法人向けは横ばい

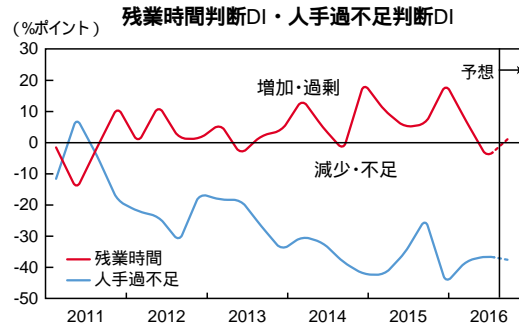
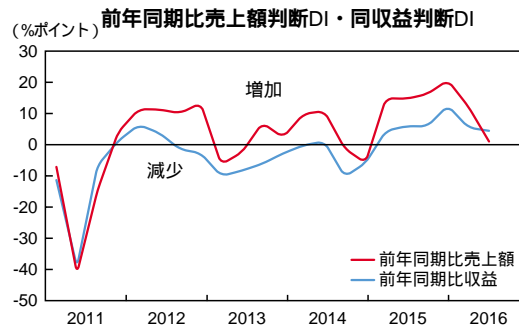
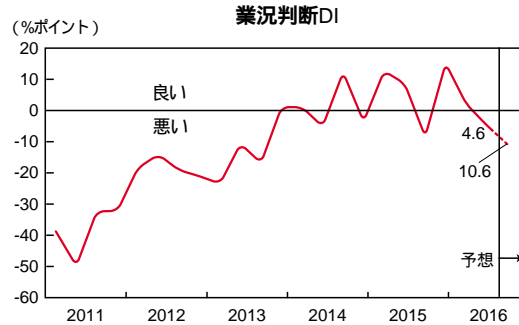
4～6月期の景況

業況判断DIは 4.6と、1～3月期（2.2）に比べ悪化した。悪化は2四半期連続。DIのマイナスは3四半期ぶり。法人向けサービス・個人向けサービスがそろって悪化。このところ景気の先行き懸念が広がっており、企業心理や消費者心理が揺さぶられているのが背景にあるとみられる。

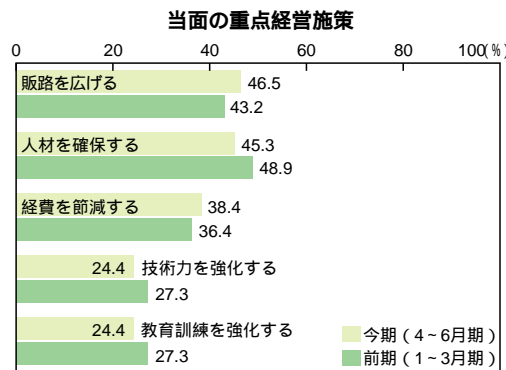
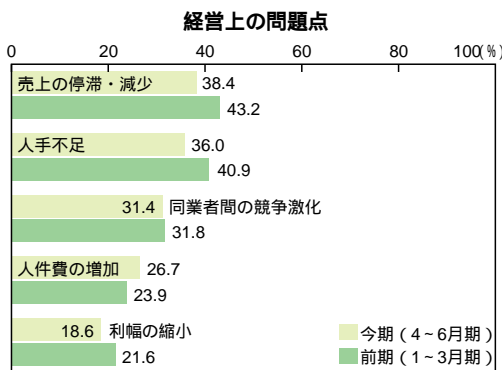
前年同期に比べた売上額や収益の判断DIは、全体ではかろうじてプラスを維持した格好。増収増益は6四半期連続。人手不足感の広がり続けている。

7～9月期の予想

予想業況判断DIは 10.6と悪化の見通し。法人向けはほぼ横ばい、個人向けが大幅に悪化を予想、全体に影響した。



業況判断DI	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月 (予想)
法人向けサービス	20.0	15.1	5.6	5.8
個人向けサービス	8.4	16.7	21.2	36.4



お客様から寄せられた声

* 景気動向調査表の通信欄に記載のあった意見をご紹介します。

製造業のお客様

熊本地震でトヨタの工場が稼働停止。
受注が減少した。(自動車部品)

愛知製鋼の爆発事故、熊本大地震、燃費問題の影響が出ている。(自動車部品)

三菱自動車の動向を心配している。(製缶・板金)

自動車メーカーの開発車種が少なく、仕事量も10月頃まで少ない状況。(アルミ合金鋳物)

熊本地震でお客様の工場停止が響いている。(パイプブラックシステム)

熊本地震で住宅修繕が増え、出荷量が増加している。(粘土瓦)

長期的に考えると熊本地震がマイナスの影響を及ぼすことになるだろう。今の段階では実害はない。(粘土瓦)

緩やかな市場の縮小によって大手メーカーの再編が起こっている。当社も変化に対応する準備が必要だ。(建築金物加工)

地道な新規顧客開拓が実り、芽が出てきた。(金型・治具)

熊本地震で取引先の操業が不規則になってきた。(給食・弁当)

値上げにおおむね成功。今後の受注に注目。(レトルト食品)

公共工事・民間工事がそろって減少している。激しい競争は表立ってはいないが、商圏が交錯しているため、価格低迷から抜け出せていない。人口構成の変化とインフラ整備事業の縮小が追い打ちをかけている状況。(鉄線加工・溶接金網)

円高の進行で得意先からコストダウンの要求がある。(工業用パッキン製品)

熊本地震で主要顧客の工場が操業停止。原油価格の下落で販売単価が下がっている。(合成樹脂原料)

名古屋駅前の再開発で材料の納入があった。(住宅・神社仏閣用建材)

品質第一、コストは二の次という流れに変わりつつある。高品質を保つモノづくりには、適正なコストがかかることを納得してもらおう筋道が大切である。(金型)

熊本地震が発生した時、当社の既納設備には異状が出ず、他社の設備には異状が出た。これまで表に出なかった当社の技術的努力が顕在化し、改めて信頼を得る結果となった。今後の受注に良い影響を及ぼすと思う。引き合いがあってから見積書を出さなければならぬまでの期間や、技術的情報の提供

を求められてから回答しなければならないまでの期間が、異常なまでに短くなっている。このことから設備投資の計画から実行までの期間が短縮されていることが判る。これに対応できない企業は除外される傾向もみられる。(機械設備)

卸売業のお客様

メーカー系列の通販が増えている。地域の二次問屋は不用になるかもしれない。(包装資材)

サービス人員を強化し収益が向上した。(カーナビ・バッテリー・ETC)

円高の進行でプラスの影響がある。(寝具・こたつ布団)

工事請負金額の底上げがなかなかできない。(AVセキュリティ機器)

熊本城や民家の瓦が落下している映像を見た人から金属屋根にリフォームしたいとの声があがっており、見積もりがはじまっている。(建築金属材料)

太陽光発電関連の受注が減少している。(電設資材)

熊本地震の影響で一部エリアの配送が不可。店舗倒壊で出荷停止などがあった。(観葉植物)

原油価格が下落しているため、顧客からの値下げ要請が多い。しかし仕入価格は下がらない。塗料は原油だけから作られているのではないことを説明し、なんとか値下げせずに済んでいるが、いつまでもつか分らない。(建売用塗料・塗料調合)

小売業・飲食業のお客様

お客さまの購買意欲が小さくなっている。通りの店の数も少ないので、活気がなく魅力に欠ける。(家電製品)

仕入価格の上昇や品薄感が収益に影響。販売価格には変化がなく厳しい。(米穀店)

料理長がリゾートホテルに引き抜かれ、ダメージを受けている。(料理店)

消費増税の延期で安堵しているところ。(FC事業/洋菓子製造販売)

コンピュータに強いパートが入社し、販売に関して新しい案を出してくれた。若い人の考えや発想はすばらしい。若

い人の力を借りれば、まだまだ出来るという力が湧いてきた。(金物)

熊本地震の影響は少なからずある。大型連休の前から上場企業が休みになっていたのも、消費者は支出を抑える傾向にあった。(イタリアンレストラン)

仕入値が上がっている。(精肉店)

建設業・不動産業のお客様

入札物件(官公庁)の競合が激化している。(土木建築)

住宅の省エネが2020年に義務化されるが、規模の格差が広がっている。(建設工事)

住宅ローン金利が1パーセント以下になって、お客さまが動いている感じ。ただ、じっくり検討するお客さまも増えているので、工事の段取りと資金計画が上手くいかないときがある。(一般建築)

地場の小規模なゼネコンは仕事が減っている感じがする。(内装工事)

鉄筋工事業者には一服感がある。7~8月から年末までは忙しくなりそう。来年は東京オリンピック需要が本格的に発生するだろうから人材が東へ流れる。名古屋地域の人手不足が心配だ。(鉄筋工事)

景気は今もって良いとは思わない。いつまでたっても中小企業は潤わない。大企業は安定した雇用が確保できているようだ。(土木建設)

思うほどには景気が良くなり、同業者間の競争が激化しつつある。(鉄骨工事)

消費増税が見送られたので、増税に伴う作業を急ぐ必要がなくなり、しばらくは安心していられる。(タイル工事業)

設備投資が動かない、契約が遅れる、人件費やその他経費が上がり利益が減少。ガソリンが安いのでその分を多少補えた。(給排水管設備工事)

不動産物件の情報が少なくなっている。(不動産業)

運輸業・サービス業のお客様

燃料価格が上がらないのはプラス要因だが、仕事量が減少している。(貨物輸送)

トヨタ自動車の生産の一時停止で稼働に少なからず影響が出た。(部品輸送)

ドライバーの中途採用が難航。(一般貨物輸送)

賃貸物件の管理業務がスタートし、売上が少し増えた。ドライバーの怪我で欠員が発生。採用のための広告費や教育訓練費が嵩んだ。(一般貨物輸送)

名古屋駅周辺の開発によって顧客が増加している。(貸おしぼり)

周年旅行が獲得できた。(旅行業)

遊技機の撤去問題などがあって、業界動向は不透明。(パチンコホール)

全国的に精神科病院への入院患者が減少している。国の政策も在宅医療推進の方向。今後、生き残りをかけた経営の舵取りに迫られる。(精神科・心療内科病院)